

山本真嗣 著 「集中力をつけるために」 Suzuki Method 才能教育 167 春 2009

才能教育研究会 2009年3月16日発刊を読む

集中力をつけるために

1. (1) 「なぜ私が最初に"キラキラ星"を書いたのか分かりますか？」あるとき松本の会館でお目にかかっている時に、私は鈴木先生からこの質問を受けました。
  - (2) 「基本のパターンを覚えるためでしょうか」とお答えしますと、しばらく煙草をふかしておられた先生は、一言「小さな子どもに集中力をつけるためです」と言われました。
  - (3) その一言から私はいろいろな疑問が氷解していく思いがしたことを、今でもはっきりと覚えています。
  - (4) 鈴木先生の発想は、私どもの思っている点とは違うところにあり、もっともっと先の方にあるのではないかと思うことがあります。
2. (1) 「3分間集中する力をつけることがまず最初の第一歩ですよ！」この鈴木先生の言葉はそれからの私の指導の大きな指針となりました。
  - (2) 例えば卒業曲について考えてみましても、1巻のゴセックから少しずつタイムが増え、10巻のモーツァルトではおよそ30分になっているのが分かります。
  - (3) 少しずつ集中力を増すために曲を選んでおられたのではないかと考えられます。
  - (4) 3巻のブルーレと4巻のヴィヴァルディ 1楽章が近すぎるという声がありますが、集中力を少しずつ増やすチャンスを見ると、よく理解できるのではないのでしょうか。 P120

[コメント]

「3分間集中する力をつけることがまず最初の第一歩」、そのために小さな子どもに「キラキラ星」を指導する。鈴木鎮一先生のこのお考えは、教育の本質をよく示していてとても参考になる。

- 2009年3月11日林明夫記 -